教育支援センターだより

10月号　令和8年度　第7号
令和8年　10月19日発行（通算199号）

花かおり
緑あふれ
人輝くまち
こうのす



○ 教育相談事業
○ 適応指導教室事業
○ 特別支援教育事業
○ 研　修　事　業

鴻巣市立教育支援センター
〒369-0133　鴻巣市小谷1890番地1
TEL　048−569−3181
FAX　048−569−1773

「遊び」の本質

就学支援相談員　栁　雅之

大人は、子どもの遊んでいる姿を見ていると自然に笑顔になります。そして、その姿を見ているだけで、とても幸せな気分になれます。しかし、「度が過ぎる！」と思った瞬間、その見方は一変してしまいます。「すぐにでも止めさせなければ！」と、大人の望む行動に向けたいという意識が強まってしまうからです。こうした大人の態度の変化は、子どもの成長の中で、いつ頃から顕著になるのでしょうか。

私が思うに、子どもが机上で勉強しはじめる頃からその傾向は強くなるように感じます。いつまでも遊んでいる我が子を見ると「遊んでいないで、早く○○しなさい。」とつい小言を言ってしまいます。特に、学校から帰った我が子がひたすら遊びに熱中していると、「宿題は？」「いつまで遊んでいるの⁉」と注意したくなります。

そもそも「遊び」は、子どものためにならないものでしょうか。

大人が考える「遊び」は、仕事から離れて心身をリラックスさせるためのもので、楽しいものであり、嫌なことを忘れさせてくれます。しかし、子どもの（特に幼児にとっての）「遊び」は、よく観ると大人の場合とはかなり違うように思うのです。

「遊び」とは？　明鏡国語辞典には、次のように書かれています。

①遊び楽しむこと。特に趣味や道楽で(または軽い気持ちで)好きなことをすること。　②飲酒・賭け事・色事などを好んですること。遊興。　③作品や芸などに見られるゆとりの要素。また、興に任せ過ぎた要素。　④機械の結合部分にあるゆとり。

あんな場面、こんな場面、それぞれの意味ごとに様々な情景が目に浮かびます。しかし、ここに示されているのは大人側から見た「遊び」の意味が大半で、子どもはおそらくこのような意味などは考えず、まさに夢中になって取り組んでいるのではないでしょうか。そして、その姿をよく観察すると、どうやら大人が考えるよりもかなり高度な「学び」をしているといえそうです。さらに、一人で遊んでいるときと二人以上で遊んでいるときとでは、「夢中になる」のは同じでもその「学び」にはかなり違いがあるように思います。例えば、積み木を高く積み上げたり、ブロックを組み立てたりと一人で遊びに没頭している子に、「何を作っているの？」と聞くと、「くるま！」、「いえ！」と楽しそうに答えてくれます。言葉で答えてくれなくても、その様子で何を作っているのか想像できることもあります。こうした姿を観ていると、自分が見たものや経験したことを表現する力が着実に育っていることが分かります。また、二人以上の遊びでは、鬼ごっこにしてもドッジボールにしても性格の違う者同士が自分の役割やルールを通して遊ぶことで、「やってよいこと」や「やってはいけないこと」、「面白いこと」や「面白くないこと」等々、自分一人だけでは知ることのできない様々な経験をします。このように「感じる・考える・行動する・共有する」という一連の活動によって、社会で生きていくための力が少しずつ備わってきます。

幼稚園やこども園、保育園では「遊び」を中心に、学校では「教科」を中心に社会で生きていくための力を身に付けていきます。双方の「学び」に優劣はありません。しかし、大人の見方によって「遊び」が軽視され、「教科」ばかりが重視されてしまうのは少しもったいないような気もします。

なぜ「遊び」は子どもを夢中にさせるのか、「遊び」から得られるものは何か、等を見つめ直してみて下さい。そのうえで大人は、「遊び」を通して子ども自身が自分の良さを伸ばせるよう支え助けることができればと考えています。



9月の相談状況　375件

相談内訳

	R8. 9月	R8. 8月
相談員等の学校等への訪問	168	43
相談者来所	108	97
電話	99	84

主な相談者別内訳

小・中教職員	107	28
小学生保護者	71	57
小学生	44	33
年長児保護者	31	27

主な相談内容

不登校	127	68
性格・行動	70	36
特別支援	67	36
就学	42	43
5歳児健診	31	15

10・11月の行事予定

月	日	曜	行　　事
10	22	木	まなびの教室　14:00
	27	火	教育支援センター防災訓練
	28	水	Let's教室ハイキング（コスモス畑）
			就学支援委員会③　15:00
11	4	水	Let's教室グラウンドゴルフ（芝運動場）
	12	木	鴻巣市教育研究実践発表大会
	17	火	Let's教室給食試食会
	20	金	就学支援委員会④　15:00
	26	木	まなびの教室　14:00



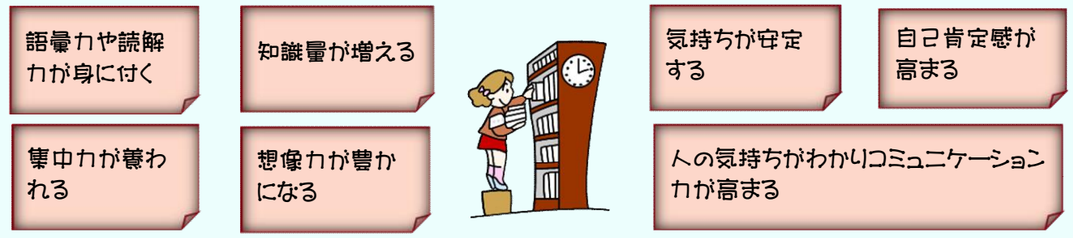
早いもので、令和8年度も残り半分となりました。悩みごとの解決に向けて、場合によっては「今をどうするか」とともに「来年4月をどうするか」も、そろそろ考え始めなければなりません。

Let's教室は、主に中学生対象の『進路コーナー』を拡充し一層使いやすくしました。

シリーズ　0歳～15歳までの一貫した教育の推進
読書週間　10/27(火)～11/9(月)

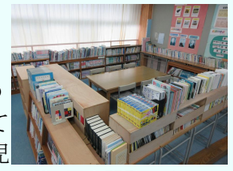
読書は、子どもたちに様々な力を育みます。例えば、『子どもの読書活動の推進に関する法律』第2条は、読書の意義を「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」として、積極的な読書環境の整備を求めています。また、国立青少年教育振興機構は、「読書をすることが多い子どもほど、コミュニケーションスキルや礼儀、マナースキルが高い傾向にある。」との調査結果を公表しています。

つまり、読書に期待されているのは、「いかにテストで高得点を取り成績を上げるか」（いわゆる学力アップ）にとどまりません。おおよそ次のように、現在及び将来の生活や学習の各場面で発揮されるであろう大切な資質・能力を高めてくれるのが読書の魅力となっているようです。



学校では、国語の時間を中心に文学的な文章や説明文、古典、詩歌等、様々なジャンルの作品に触れ、登場人物の気持ちや情景を想像したり効果的な表現方法を学びます。また、その他の教科でも、学校図書館や新聞、インターネット等を利用して詳しい情報を調べたりまとめて表現する活動を通して、言語能力や情報活用能力を高めています。こうして子どもたちは読書に親しむ素地を身に付けていくのですが、自分から進んで本に手を伸ばすようになるには何らかのきっかけが必要です。

教育支援センターのLet's教室は、ささやかながら学級文庫と別室の閲覧スペースを設けており、旧小谷小学校の蔵書も活用しながら本を身近に感じられる環境づくりに努めています。地域に目を向けてみると、鴻巣市立図書館（鴻巣中央・吹上・川里の3館）では、図書の貸出しの他、絵本の読み聞かせや昔話の語り等、子ども向けの定例イベントを毎月開催しています。また、児童センターの紙芝居、公民館の夏季読書感想文教室等の企画もあり、幼児を含む子どもたちが、言葉や物語の世界へ興味を広げる機会を提供してくれています。


4階　図書閲覧スペース